

令和元年度防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和元年7月23日(火曜日) 午後3時

2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室

3 出席者

防府市長 池田 豊

防府市教育委員会

教育長 江山 稔

委員 小松 宗介

委員 村田 敦

委員 田村 純子

委員 温水 祥代

4 会議に参加した者

学校教育課長 岡本 昭彦

6 会議に従事した職員

教育部長 林 慎一

教育部次長 森川 智子

教育総務課長 尾中 克則

教育総務課長補佐 磯邊 陽二

午後3時開会

○教育部長（林 慎一） 定刻になりましたので、始めさせていただきます。

ただいまから、令和元年度防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長（池田 豊） 市長の池田でございます。

教育委員の皆様方におかれましては、平素から本市の教育行政の推進に多大なる御尽力を賜っておりまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

この防府市総合教育会議は、御案内のとおり、平成27年度の「改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の施行以来毎年開催してきております。本市の教育大綱の策定を初め、教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策について意見をいただいているところでございます。

私は、「地域の子どもは、地域で育てる」ということを一貫して申し上げてきております。

集団登校の子供に声をかけておりましたら、最近、その挨拶の声が大きくなるのを大変うれしく思っておりますし、実際、今日午前中に国衙地区で3世代交流から発生しました、国衙の寺子屋というのを見に行かせていただきました。

50名以上の子供が来て、おじいちゃん、おばあちゃんにあたる人が来て、そして、1時間ほどみんなで勉強をする。その後で、富海の大道さんという方が、藍染について1時間程度話をされました。そして、みんなで食事をして帰るという。これを夏休みは毎週されるそうですけども、そういう姿を見て、こういうのも一つの「地域の子どもは地域で育てる」ということかなと感じたところでございます。

また、一方で私は自分自身、夢は限りなく大きく、目標は限りなく高く、されど一步一步着実にということをお自分のモットーにしておりますけれども、子どもたちが将来の防府のため、山口県のため、日本のため、そして、世界のために頑張ってくれる。そういう子どもも

育てたいと、そういう考えを育む教育を目指していきたいと考えているところでございます。

それを実現するための一つの方策として、学校と地域がいかにして連携していくかということが重要なテーマになると思っております。

そういったことも考えまして、本日の議題を「地域連携と土曜日の教育活動について」とさせていただきます。

本日は限られた時間でございますけれども、委員の皆様方の忌憚のない意見を伺いまして、急ぎ対応すべきものについては、スピード感を持って、その解決に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

○教育部長（林 慎一） ありがとうございます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。

議事につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づきまして、市長をお願いいたします。

○市長（池田 豊） それでは、よろしくお願いいたします。

本日の議題であります「地域連携と土曜日の教育活動について」を上程させていただきます。

まず、地域連携教育の経緯や実績等について、学校教育課から説明をお願いいたします。

○学校教育課長（岡本昭彦） 学校教育課の岡本昭彦です。

それでは、これから「地域の子どもは、地域で育てる」教育の創造～地域連携教育をとおして～と題しましたプレゼンをいたしますので、しばらくおつき合ください。

今、日本の学校教育が大きく変わろうとしています。「開かれた学校づくり」という言葉は、もう耳にされていることと思っております。

「開かれた学校づくり」とは、子どもたちを育てる教育を閉ざされた学校だけで完結させることなく、保護者や地域住民に理解してもらい、協力してもらい、子どもたちが学校だけでなく地域社会の中で学ぶ、そのような学校づくりのことです。

こうした取り組みは、近年、大きく広がりを見せております。

写真を御説明させていただきます。左上でございます。

大道中におきまして、地域の方が琴の演奏の授業に指導者として支援していただいている様子でございます。

右上、華城のコミュニティ広場で、無病息災・学業成就を願って、地域の方と一緒にどんど焼きを行っている様子です。

左下、富海中の生徒が、地域貢献の一環として富海駅の清掃を行っている様子です。

右下、後ほど説明いたします、菅公みらい塾の塾生が、地元企業の方に指導をしていただき、プログラミングの体験を行っている様子です。

こうした動きの中、防府市は、平成24年度に市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定しました。

具体的には、各学校に開かれた学校づくり実現に向けた協議をする、学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民の協力を得て教育活動の充実を図っております。

また、このことが学校、家庭、地域の3者が、互いに教育における役割を自覚することにもつながっておりまして、「地域の子どもは地域で育てる」という機運が醸成されています。

「開かれた学校づくり」を推進するために、各学校をコミュニティ・スクールに指定していますが、地域との連携を小学校、中学校別々に行うのではなく、中学校校区で包括的に実践していこうという考え方があり、これを「地域協育ネット」といいます。

防府市でも、この地域協育ネットをそれぞれの中学校区に設置し、小中連携を軸に地域との連携を深めています。

こちらが、防府市の地域協育ネット、「ほうふ幸せますネット」の全体図です。

防府市では、一つの小学校から複数の中学校に進学するケースがあることから、複雑になっております。

中学生になったら、小学生のときに所属していた地域協育ネットとは違うネットに所属するというケースもあります。

こうした取り組みが進み、開かれた学校づくりは、地域とともにある学校づくりとなって

おり、こうした取り組みを通じて学校を核として地域を育てるという新たな展開が期待されているところです。

「地域の子どもは、地域で育てる」、「学校を核として、地域を育てる」、「地域の子どもが、地域を育てる」、学校教育の役割は一層重要であるといえますし、「学校と地域」という考え方から、「学校も地域」という考え方になりつつあり、今や、子供を育てるには、「地域まるごと学校」という発想になっています。

こうした考え方で展開される教育を「地域連携教育」と呼んでおります。

この図は、防府市において地域連携教育を推進していく全体構想、地域まるごと学校「防府モデル」です。防府市で展開している地域連携教育の特徴は、生涯学習課・各公民館が把握している人材を、ほうふ幸せます人材バンクに登録し、各コミュニティ・スクールや地域協育ネットでの活動を支援する体制を整えていること、さらには、複雑な校区を有する防府市において、各公民館の社会教育指導員が地域連携教育のコーディネーターとなっているところです。

防府市では、学校運営・学校支援・地域貢献・小中連携を軸に、地域とともにある学校づくりを推進し、教育のまち日本一を目指しています。

それでは、各学校、各地域で取り組まれている活動を幾つか紹介します。

これは、防災訓練の様子です。左上、小野地域で行われた防災教室で段ボールベットを作成しているところです。右上、大道地域で学校や地域、消防や自衛隊などの関係機関が一体となった大規模な防災訓練です。左下、玉祖地域で、学校、保護者、地域が連携した児童の引き渡し訓練です。右下、華陽地域で消防署員からロープワークを学んでいる様子です。

地域連携教育は、例えば防災といった学校や地域の抱える課題の解決にも効果的です。

公民館では、夏休みに小学生が自由に参加できる講座を公開しています。こうした講座は増えていて、受講する児童も多くなりました。学校だけでなく、公民館において地域の方々が子どもを育てていただいている例でございます。

こちらは、公民館活動など地域の方々が学校へ出向き、学校経営に参画していただいている様子です。学校美術館と申しまして、公民館の講座やサークルの作品や地域の方の作品を校舎内に展示しております。

牟礼南小学校、国府中学校、勝間小学校での取り組みです。そのほか公民館の講座を学校の空き教室を利用して実施しているケースもあります。その講座に、昼休みの時間を利用して子どもたちが参加することもあります。

右下、これは、野島地域、地域を挙げての運動会でございます。今年は13名の児童生徒に対し、島民の方が40から50名参加、さらに、卒業生とその家族、大学生や他の地域の民生委員・児童委員の方など、島外からの参加を加えると120名を超える大運動会となりました。このように、学校に地域の方々が頻繁に出向いていただけるようになりました。

また、地域連携教育の推進により、地域行事や地域活動に子どもたちが積極的に参加するようになりました。地域に学校の応援団ができつつあります。左上、佐波中の生徒が松崎小学校で行われた松崎ふれあいまつりに参加している様子です。右上、ゴールデンウィーク期間中の幸せますウィーク、天満宮に登場する花回廊、この花の育成は、あらかじめ佐波中、国府中、牟礼中が行い、設置後、期間中の花の水やりを佐波中の生徒が行っております。

左下、牟礼中学校の生徒が地域を流れる川の土手の清掃活動をしています。右下、富海小中の児童生徒が海岸の清掃を行っています。もともとは、小中学校だけで実施していた地域貢献活動ですが、献身的な小中学生の活動を見た地域の方が、我々も手伝おうということで地域が参加しております。特に富海の海岸清掃は、消防や自衛隊も加わる一大行事に発展しています。

防府市の地域連携教育の特徴の一つは、土曜日の利活用です。

かつて土曜日は半ドンでした。平成14年度から完全に学校は週5日制となり、土曜日は休業日となりました。ここにありますが、週5日制の趣旨を見ますと、②番、学校・家庭・地域社会が相互に連携するといったように既に地域連携教育の重要性がうたわれています。

しかし、学校週5日制が10年たったころから、土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちが少なからず存在するとの指摘があり、子どもたちの成長にとって土曜日をこ

れまで以上に充実したものにすることが必要となりました。

また、時を同じくして、民間の世論調査等において、土曜授業の実施に高い指示が集まり始めました。

そこで、土曜日の教育活動の推進という考え方が浮上してまいりました。

学校週5日制の趣旨を生かしつつも、学校がイニシアチブをとって、土曜日の教育環境を豊かなものにするためです。

防府市では、地域連携教育の具現の場として、さらには地域の教育力の向上を図るために、平成25年度から「土曜授業」として試行開始しまして、平成27年度からは全学校で年10回程度実施、平成30年度からは「土曜日の教育活動」と改名してまいりました。

そして、令和2年度からは、これまで教育委員会が主導として行っておりました土曜日の教育活動を学校主導の形にしていく計画でございます。

各学校における土曜日の教育活動にはさまざまな種類の活動があります。

まず、通常授業型です。子供たちの学力保障も念頭に置き、授業時数の確保のために行われる活動です。こうした活動は、保護者や地域と連携した活動にするという趣旨が浸透していくにつれ、この5年間で減少しています。

次に、授業参観型です。休日を利用しての参観日は、他の自治体の学校も行っておりますが、保護者以外の地域住民にも御案内しての活動です。授業参観だけではなく、より保護者や地域と連携した活動に取り組もうという意識の表れから、こちらも減少しています。

華陽中学校文化祭における塩浜太鼓の演奏風景です。地域の伝統文化を伝承する取り組みを保護者や地域の方に鑑賞していただく活動です。こうした学校行事参観型は、いずれの学校においても一定の割合で実施されている活動計画です。

牟礼小学校で行われた農業文化体験の様子です。このように学校行事に保護者や地域の方が参加される学校行事参加型も、また、いずれの学校においても一定の割合で実施されている活動計画です。

こちらは、右田中学校の生徒が校区内のお田植え祭に毎年30名から40名の生徒が参加して、古式ゆかしき儀式をとり行っている様子です。子どもたちが地域行事に出向き、その行事を地域の方々を支える。このような地域行事参加型は、平成30年から明らかにその割合が高くなり、主流の活動形態になったといえます。

以上、御説明しましたとおり、土曜日の教育活動は、授業型の取り組みが減少し、地域行事参加型が増加しております。この5年間で土曜日の教育活動は教室での授業にとどまらず、教室や学級、学年といった枠を飛び出し、学校からも飛び出し実施する活動へと変貌しています。そして同時に、学校主体から地域主体へと変わりつつあります。

土曜日の教育環境の充実によって、子どもたちの土曜日の過ごし方が有意義なものになっていき、子どもたちの健やかな成長につながっています。また、地域の教育力が向上するだけでなく、地域の活性化にもつながっているところでございます。

防府市の地域連携教育の特徴である土曜日の利活用のもう一つの取り組みは、防府市教育“夢”プロジェクト事業、菅公みらい塾でございます。

菅公みらい塾は、土曜日の教育活動の質を向上させるために、防府市教育委員会が主体となって進めるモデル授業でございます。対象は、市内小中学校に在籍する小学校5年生から中学校2年生で、募集定員は40名程度でございます。年間8つの講座と、それに加えてオプション講座が7から8回実施されております。

それでは、菅公みらい塾で開催している講座を幾つか紹介します。

左上、野島でのシーカヤックの体験、防府の豊かな自然を満喫しております。右上、青少年科学館ソラールで、地震のメカニズムや建物の耐震構造について学んでいます。左下、市内にあるプラスチック再生工場で日本全国から集められた使用済みのプラスチックをタコつぼや公園の柵などにつくりかえていることを学んでいます。右下、市内にある段ボール製造工場で古紙から私たちの生活に欠かせない段ボールに生まれ変わっていることを学んでいます。

防府市の歴史や文化についても学んでいます。

左上、防府天満宮で菅原道真公や防府天神縁起絵巻、防府天満宮と幕府の志士との関係な

どを学びます。左下、阿弥陀寺では、茅葺きの山門にある仁王像を見たり、石風呂を見学したりして東大寺再建に尽力した重源上人に関するなどを学びます。右、周防国分寺では住職さんのお話から奈良時代の律令制度に関することを学びます。

上段でございます。日英饗応料理づくりや講話を通して1866年12月に防府でイギリス東洋艦隊司令官キング提督と毛利敬親が会見した事実を知り、幕末における英国と長州藩の関係や幕末維新について学んでおります。

下段左、青年会議所の方や市役所職員と防府の魅力を生かしたまちづくりについて話し合いました。下段右、天神まちかどフェスタに参加しイベントを企画したり、まちづくりを進めたりする上でのポイントについて学びました。

本市は、いち早く全学校をコミュニティ・スクールに指定して活動の場として土曜日の教育活動を充実させるなど、地域連携教育には先進的に取り組んでおります。

子どもたちの笑顔のために、「地域の子どもは、地域で育てる」という理念を大切に、今後も公民館を核として、学校・保護者・地域が連携し、取り組みをよりよいものに改善していきながら、地域の教育力を向上させていくつもりでございます。

また、こうして育った「地域の子どもは、地域を育てる」といった地域の明るい未来を期待して、一層地域連携教育を推進していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。御清聴ありがとうございました。

○市長（池田 豊） 学校教育課長からの説明が終わりました。

いろいろな御意見、御質問等があるかと思えます。どうぞ、忌憚ない意見をお願いしたいと思います。

○委員（村田 敦） 土曜授業なのですが、地域行事参加型がだんだんふえてきているということですが、例に上げられたもの以外にはどのような行事がありますか。

○市長（池田 豊） 学校教育課長。

○学校教育課長（岡本昭彦） 各公民館が行っている文化祭がございます。こちらの文化祭には、会場設営で子供たちが参加したり、その中で出し物として参加したりということで盛り上げていく、という例がございます。

○委員（村田 敦） そういった地域行事には生徒さん、児童さんは全員参加されているのでしょうか。

○学校教育課長（岡本昭彦） なかなか全員の参加という形にはなっておりません。小学校では高学年の子からの参加ということになります。中学校では様々な地域行事がございます。先ほど右田ではお田植え祭というのがありましたけども、その地域に様々な行事がありまして、それを多くの中学校では部活動単位で、今回は1時間だけこの部活が行って協力するよというような形の取り組みとなっております。

○市長（池田 豊） 田村先生、何か。

○委員（田村純子） コミュニティ・スクールについては私も現職中、大変かかわらせていただきまして、勝間の地域の方としっかりとつながれたと自負はしているのですが、退職の年になったころには、少し学校運営協議会の会議が形骸化してきてしまっているかなと、熟議も少し出尽くしたかなという感もあり、もう一步踏み込んだ取り組みが必要なのだろうなと思いつつ退職していきましたが、その後もこのように数々の取り組みをしておられ、大変素晴らしいことだと思っております。

先日もお話はしましたが、学校課題の支援をするという項目がありますので、ぜひ、地域の方の力を借りて課題のある家庭、課題のある子ども、そういった子どもたちも地域行事に入りこみ、つなげ、ともに育てていただきたいなという思いがあります。

国府中でやっておりますキッズクラブで、例えば生まれたばかりの赤ちゃんを抱っこしてみるとか、不登校の子供を持つ母親たちが集まる会があるのですが、そういったところに子どもも一緒に参加してみるとか、松崎地区では、まつぼっくりの会で子ども食堂が始まりました。そういうふうに行行政だけでやろうとするとかなり難しいところも、地域の活動や企業などの力を借りて、地域の子供も取り込んで行うという活動をもっともっと繰り広げていけば、防府ならではの裾野の広がった活動をもっともっとできるのではないかなというふうに思っています。

そのためには、若干予算がかかるかと思いますが、そういったものを官民が一緒になって力を携えながら、点だけで頑張るのではなくて、面のように広げていけるような地域活動を推進していただけるといいなと、私も考えたいなと思っているところです。

○市長（池田 豊） どうもありがとうございます。

コミュニティ・スクールは、言われたとおり、山口県は100%設置ということで、全国のトップを切って100%になって、県も一生懸命取り組んでいます。率は100%ですけど、やはり課題としたら、そのコミュニティ・スクールが、各学校においては、真に地域の子どもは、地域で育てるになっているかどうかということも、多分、大きいことになると思っています。

今、田村委員がおっしゃいましたけども、勝間、私は松崎に住んでいますけれども、地域の方、一生懸命されていらっしゃると思いますし、また、朝、毎日集団登校の子どもを全部見送っているのですけれども、先ほど田村委員から話がありました、少し課題のあるかなという子どもが、日によると元気で通学しているのを見て、ちょっと嬉しくなります。地域の子どもをどうしていくかということが、小学生の団体や県などの、特に大きな課題ではないかと、私自身も思っているところでございます。

ありがとうございます。温水委員はいかがでしょう。

○委員（温水祥代） 土曜日の教育活動についてですが、その教育活動が授業参観に当たっているときに、小学校の参観のときにはたくさんの保護者の方の参加があるのですが、中学校の参観には、すごくわずかな人しか参加されていないというのが気になります。

あと、地域の方との連携ということですが、子どもたちのお父さん世代と地域との交流が極端に薄いのではないかと感じます。小学校の参観や行事にはとても多くのお父さん方が見受けられるのですが、それが、子ども会の行事であったり、地域のお祭りとかそういった行事になると、もちろん参加されている方もありますが、参加する方がすごく少ないのではないかと感じます。

地域の方にはいつもみまもり隊の方々がたくさん見守っていただいているので、私たち保護者も少しでも協力していかないといけないと感じています。

○市長（池田 豊） ありがとうございます。

みまもり隊の方は本当によくやっけていらっしゃるなど、つくづく感じています。それと、小学生に比べて中学生の保護者の方の参加が少ない。これについては、常々、私も教育長に、何が原因なのかということをお話しているところですが、いろいろな課題もあって、小学生と中学生で多分違うのではないかなと思います。貴重なご意見をありがとうございます。

小松委員さんはいかがでしょう。

○委員（小松宗介） 地域まるごと学校「防府モデル」これを見ると、本当に中身はとても良いものです。それと、教育のまち日本一を目指す地域まるごと学校「防府モデル」、ふるさとを愛する心の育成、そしてふるさとを担う人材育成カリキュラム、この中に、先ほど言った地域の行事などを書いています。

この地域の行事に際して、親が参加をする、子どもが参加をする。そして、地域の人が本当に頑張る。

子どもは、実際には回覧板が回っていたりすると思いますが、子どもに密着していなかったら参加することはほとんどないのです。私自身のことを当てはめて言うとお恥ずかしいのですが、かかわりがあるときには行くということで、こういう行事というのは恐らくただではできないと思うのです。恐らく自治会が主体になってやっているのではないかと、また、子ども会が主体になってやっているのではないかと思います。かなりの労力などを考えると使うお金は厳しいのではないかとと思うのです。

やはり、地域で行っているそういう一つ一つの行事に対してどの程度、市から協力金が出せるかどうかと、でも、これは学校教育課は関係ないかもわかりませんが、教育委員会の予算になるのか、ほかのところになるのかもわかりませんが、上手にお金を出してあげることができれば、もっと大きく広く楽しく盛り上げることができるのではないかと思います。

それと、あとは学校運営協議会、これは中身がすごく、「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」と書いてあります。次に、「学校運営について教育委員会または校長に意見

を述べることができる」「教職員の任用に関して教育委員会規則に定める事項について教育委員会に意見を述べることができる」こんなすごい力を持っている協議会で、任命されてそこに参加される方には、お金は出ていないですよ。

確かに、地元の名士の方がなっているとか、教育に関係する方がなっているとか、言ってみれば学校の校長先生、そして、教頭先生、そして、PTAの小中の会長、副会長がなっているところもあるかもしれません。でも、やはり時間と知恵を出していくわけですから、本当に財政厳しい中で問題はあるかも知れませんが、年間の、もしくは1回会議をやったときに何らかの経費を提供するなどすれば、もっと盛り上がるのではないかなと思います。また、教育委員をされている委員が実際にいらっしゃいますけど、その中で、この前も話し合ったのですが、学校に行っていない子どもたちを、学校に行っていない子どもたちの親をどうやって巻き込むかということを考えていかないと、本当にみんなで、地域で盛り上がる、「地域の子どもを地域が育てる」とか、「地域の子どもが地域を育てる」とか、そういうことがなかなかうまくいかないのではないかなと思います。

私自身に全部当てはめて言っておりますから、私はできないほうの一人ですから、みまもり隊も今のところ私はやっておりません。

子どもも、先ほど市長さんがおっしゃったように、大きい声で挨拶をこちらからしかけると必ず返ってきます。でも、言わなかったら返事をくれません。「おはよう」と言わなかったら返事を大体くれません。

でも、去年、教育長と学校訪問をしたとき、僕は子どものときに挨拶だけは得意だったという話をしたのですが、大きい声で子どもが言えば、やはり大人も言ってくれます。でも、子どもが言っても返事をしない大人が、今、多いのではないのでしょうか。

だから、そういう人たちがこの地域の親といいますか、大人であつたら、うまく地域の人たちが地域の子どもを育てることはできないと思うのです。

回覧板を何人の人が真面目に見て、自治会の方が一生懸命本当に配ってもらった市の広報を、何人の方が本当に真面目に見て、どれだけ行事がどこで行われているか、意識している方がいらっしゃるか、そういうところからも、やることはたくさんあるのではないかなと本当は思っているのです。

先ほど言った少しだけ市の予算を自治会へ回していただくとか、学校運営協議会に回していただければ、多少は変わるかもしれませんが、出てくる人たちがえらい人ばかりですが、本当に一般の方で、何班から1人出してください、1班から5班のうちの1人誰か出してくださいとか順番制にしていくと、いろんな方が出ていきやすくなるのではないかなとも思います。

○市長（池田 豊） ありがとうございます。

今、最初のお金の話がありましたけど、それなりの予算の中でいかにしていくかということだと思いますが、学校運営協議会などは実効性のあるものでなくてはだめだと思っています。例えばコミュニティ・スクール100%とか、防災で自主防災100%といっても、要は内容なのです。市が一律に予算をつけると、執行しなくてはいけないから、やりますということになるので、やはり、本気でやるところには、予算をつけるぐらいの気持ちでやっていかなければいけないと思っています。

それで、学校運営協議会の話題の中で、地元の名士という言葉がありましたけれども、それは結構大切だと思っているのは、学校の校長先生のOBの方とか、やはり経験のもとで、過去の自分と合わせながら意見を出されます。また、先ほど言った不登校の子供の親の気持ちがあるとか、その人たちをどうするかが大きな課題であって、そういう意見をどうやって聞くのかということがあるので、委員の選び方も、大事になってくると思います。

それから、挨拶のことがありましたけれども、やはり挨拶が一番大切であり、挨拶が出世の基本だと思っています。初めて会う人の話題になったときに、「ああ、あの人か、挨拶よくする人ね」となると、プラスから始まりますが、「あいつ挨拶をしないね」となると、すぐマイナスから始まります。

家の前で、朝、子どもたちに「おはようございます」とお互いに笑顔で挨拶できると、朝、学校に行くのが楽しくなる。挨拶というのは、やはり大切だなと思っていますところですよ。

コミュニティ・スクールの話もありましたけど、内容が大切であって、やはり本当は多く参加していても、実際には、先ほど小松委員がおっしゃいましたけれども、学校に来られない人をどうしていくかということが、本当は大きな課題だと思います。

それが、まさに「地域の子どもは、地域で育てる」、ということで、行政もまだ難しいのですが、施策を行っていますけれども、やはり学校の影響もあると思うので、そういう話をして行く必要があると思います。

その他、何か。村田先生。

○委員（村田 敦） 参加していただく方、地域の方もそうですし、親御さんもそうですし、そういうできるだけ大勢の方に参加していただくのは、やはりこういった活動を盛んにしていく上で重要だろうと思うのですが、比較的周辺部、防府市の、そういったところは、もう、地域の方が協力的であったりとか、そういう傾向があると思うのですが、中心部になってくるとやはりいろんな方がいらっしゃいますし、そういった協力を得にくいのではないかなど、思うのですが、実際のところはどうか、地域による差というのはあるのでしょうか。

○教育長（江山 稔） 地域による差というか、内容によると思うのです。学校が用意するものによると思います。

委員さんおっしゃるように、周辺部の地域などで行うときは、やはり、もうおらがとこの学校だという感じで多く来られますが、じゃあ、松崎とか桑山とか大きいところでも興味のある方は多くいらっしゃるし、学校が用意したものがすごく興味があればどんどん来られるけれども、ありきたりなものでは、自分が行かなくても大丈夫じゃないのかということがあるので、参加率という話までいくとやはりなかなか厳しいところがあります。

いつもの役員の方とか、そういう出席の方に偏りがある場合には、やはり学校と一緒に、教育委員会も内容を考える必要があるのではと考えています。

○委員（村田 敦） やはり、中心部のほうは新しくいらっしゃる、外から来た方が多いと思います。だから、そういった方をうまく巻き込むことができれば、また、全然違ってくるようには思うのですけれど。

○教育長（江山 稔） 一緒になって工夫していく、それとまた、広報活動をしっかりしないと、先ほど言われたように、幾らいいことをやっても、全然伝わっていないと。子どもを使ったり、今、公民館の社会教育指導員がコーディネーターになっていますので、公民館とか色々なところを使った広報活動に取り組んで行こうと思います。

○委員（小松宗介） 向島地区は、学校の運動場の草は地域の人にとるということもやっていますが、現実にはみんなで本当にこの学校がなくなったら寂しくなるなど。そしたら、やはり地域の人たちが学校を中心としたまちづくりとか、地域づくり、それこそ、本当にスクールコミュニティを実践しているのは、向島とか富海ではないかなというふうに思うのです。

だから、そういうのをモデルにして、各地区でも少しずつ児童が減ってきていると、ごく一部のところを除けばです。そういうところというのは、それをうまく利用していけば、学習していけば良くなっていくのではないかなというふうに思います。だから、運動会も地域の運動会と一緒にやるとか、先ほども野島の件も見ましたし、子供たちの10倍が来ているわけですから。

そういう意味では、やろうと思ったら私はできると思います。

○市長（池田 豊） 向島は本当に地域が一緒になっている、いい運動会でした。参加する人は少ないので、次から次では体がばてるから、みんなでここでちょっと休憩ということもありました。昔は結構、向島大きかったですけど、今、本当に生徒が減ってきています。今は、桜で有名になりましたけど、向島の方は向島小学校を愛していますね。向島を出られた方も、やはり地域で向島を、学校を愛するというのがすごく強いような気がします。

だから、町中に出た方も、向島の小学校を出ている方はプライドを持って向島のことをおっしゃってくるので、やはり学校を愛しているんだなというふうには思います。

○委員（小松宗介） 向島からこちらのほうに住んでいると、「お前、逃げたの」とこういうふうに言われます。

いつも問題なるのが、働き方改革が進んでいく中で、土曜日を利用するときに、学校の先

生方いろいろ仕事が忙しいのに、土曜日に出てこなきゃいけないとか、当然、何かやろうとしたら、準備から、最後、始末までやっていかなきゃいけないということがあります。

私が子どものときは、もう、土曜日は半ドンでちゃんと毎週ありました。毎週でしたから関係ないのですが、今は本当に週5日で、先生方のほうが週5日制にくたびれているというか、追い詰められているという、そんな感じになっています。そこら辺も私たちが本当に考えていかななくてはいけない大きな問題だろうなというふうに思います。

それこそ本当に、郷に入れば郷に従えではないけれども、せっかく来たのだから、チャンスなのだから、そのときだけは本当に地域の方々と一緒になって、この学校を盛り立てるといふか、この学校にいたという思い出づくりをしてほしいなどは思います。

○市長（池田 豊） 本当に地域の方もですし、行かれた学校の先生もそこに立って一緒に務めて、子ども相手なので、やはり教員の先生の気持一つで全然違うので、僕自身もいつも教育長に言っていますけど、先生の一言で自分の気持ちが変わったいい事例と悪い事例と両方あるのですが、本当にそれで変わります。今、思えば、やはり先生が熱血漢のときはやはりクラスも燃えとったような気がするのです。

それで、やはり地域活動でも、それは、働き方改革なのでなかなか言えませんが、先生が一生懸命燃えていたら、地域の方も一緒になって燃えたと、向島は多分そうだと思うのですが、行かれた先生が島だったもので、熱血漢でちょっと燃えていたのではないかと、地域の方とすごく仲良くなったのではないかと思うのですが。

今、いろんな、予算をつけるよりも人を派遣してあげたほうが、お金をすごくつけるよりもよっぽど効果がある。

予算をつけるのではなくて、「もう、行ってやりましょういね」という熱血漢の方がいるほうがものが動くと思います。コミュニティ・スクールや学校だって、校長が替われば変わるというのがすごく欠点です。

校長が替わった途端にその子どもが挨拶しなくなる。私が、松崎地区から牟礼地区をずっとジョギングして、もう20年以上回っていますけども、あるときは松崎地区であり挨拶しないのに、牟礼小学校の校区に入ったらみんなが挨拶してくれて気持ちよくなって、帰りにまた松崎校区に戻ると挨拶しない。何年かたったら、松崎校区で「おはようございます」といっているのに、牟礼校区に行ったら挨拶がなくなるとか。やっぱり挨拶、まず、挨拶で明るくなると、先ほど、挨拶、返事がないのは、大人だとありましたけども、市役所で、朝、「おはよう」といったとき、「おはよう」といったら気持ちいいけど、「おはよう」と無視されたら、朝の気持ちが沈みますから。

○委員（小松宗介） そういうときは、大体相手の顔が自分の顔だと、どこかそういうふうな意識で、ちょっと今日は明るさを欠いたのかなと思うと、少しは変わるかもしれませんね。

いつも明るく、元気に、さわやかな笑顔で挨拶されるから、市長の場合はそういうことはないと思いますけど。

○市長（池田 豊） やはり考え事していたら、聞こえない場合がありますし、出会ったのに気づかないということもあります。

その他、何かありますか。どうぞ。

○委員（村田 敦） 私立の学校へ行くなどして地元の学校に行っていない方もいらっしゃると思うのですが、そういった方への声かけとかはあるのでしょうか。

○教育長（江山 稔） 地域で声かけをある程度しています。だから、そういう地域行事とかには出てくる子もいますけど、ただ、その学校を通してというわけにもいかないの、自治会とか公民館でそういったあたりでの声かけです。ただ、普段が違う生活をしているので、なかなかうまく付き合いができていない子もいるし、逆に外に出ているけれども、地域活動もしっかりしているという子もいるので、そういう子を見るとちょっと安心します。

○市長（池田 豊） 結構ふえてきていますから、中学校を山口に行ったりしていますし。

○委員（田村純子） 「土曜日の教育活動」と改名されたということで、教職員にとりましては大きな改革が行われたというふうに捉えられており、防府にぜひたくさん優秀な教員が集まるように市長さんにしっかりPRをしていただきたいのですが、何かそういったものはありますか。

○教育長（江山 稔） まず、土曜日というのは各学校も、県内どこでも同じように必要があったら教育活動で使っているのです。ただ、防府市が土曜授業というのを頭に出したから、変なうわさが立って、もう防府に行ったら土曜は毎回授業があると、だから、とても大変だというのがあったから、それをとにかく払拭したいというのがあります。ただ、土曜授業をやったおかげで、土曜日がしっかり使えるようになり、地域との連携がしっかりできたのです。それについては、もう次の段階に行くということで、課長には県内の課長会議、私は教育長会議でこういうふうな段階に来ているので、変なうわさを流さないでほしいと、正しい理解のもとでフラットな関係で人事異動をやっていきたいと思いますという形で、今、やっております。

○市長（池田 豊） どうしても人事異動が広域になるので、やはり学校の先生もうわさとはいえ、希望ということにはなるので、それはフラットと、今、教育長言いましたけども、人事異動も円滑にできるようにしていただきたいと思います。本来、吉佐管内、山口・防府というのは優秀な先生が多いところなので、それはしっかりやって、先ほど言った、人という結構大きい問題もありますし、また、来られる先生の気持ちの問題もあるので、それは、しっかりとした教育になるように、江山教育長が頑張ってくださいと思います。教育のことは全部お任せしていますので、それで、サポートすることがあったら、一生懸命自分が動くということをしていますので、それは、大丈夫だと思います。

ほかに何か。どうぞ。

○教育長（江山 稔） 地域連携ということなので、夏休みも含めて、今、実際に具体的に先ほど出たものも、プレゼンで出たものあるのですが、夏に入ったら、補充学習というか学校でいろんな学習会をやっています。それに対して、地域の人が指導者で来てくれたり、防府商工高校の生徒が子供たちへの指導に来てくれたり、小野地区では、3日間学習会をやって、去年は、勉強をしているのとあわせて工作教室をやって、地域の人が指導に来てくれたというのも聞いております。華浦では、プログラミングの学習を小学校でやるのに中学校の科学部が来たりとか。

右田や松崎では、学校が空くときに毎週、わくわく教室、わくわく授業というか毎日2時半から4時まで、右田は毎週1回4人の人が3年生の算数に入ってくださいとか、そういった形で各学校もその地域のいろんな方々に、しっかり協力してもらって、学期中もそうだし、夏もいろんなことをやっています。これからもやっていきますので、今日、いろいろな意見もいただきましたので、今後も色々な考えを、市長の考えなり私の考え等も、また、校長等にもしっかり伝えて行きながら、まずは、明るく元気な防府市ということを私も思っております。

○市長（池田 豊） ほかに何かございますでしょうか、よろしいですか。

それでは、以上で議題「地域連携と土曜日の教育活動について」の協議を終了させていただきます。

それでは、ここからの進行は事務局のほうにお返ししたいと思います。お願いいたします。

○教育部長（林 慎一） 皆さん、ありがとうございます。

以上をもちまして、令和元年度防府市総合教育会議を終了いたします。

どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

午後3時59分閉会